

小国川ダム「不明点は説明」

2014年4月15日09時58分



会見する吉村美栄子知事＝県庁

◆ 「シンポ開催せぬ」知事明言

県の最上小国川ダム計画について、計画に反対する小国川漁協が、県と漁協がそれぞれ推薦する有識者による公開シンポジウムの開催を求めていることについて、吉村美栄子知事は14日、開催しない意向であることを明らかにした。

◆ 漁協「広く知らせたかった」

同日午前に関庁であった定例記者会見でシンポについての意向を問われた吉村知事は「学識経験者による公開シンポジウムを開催しない」と明言。そのうえで、「漁協から寄せられた、分からない点、不明点などについては、しっかりと丁寧に説明していく」と述べた。

ダム計画をめぐるのは、12日に県と小国川漁協、地元自治体などとの2回目の協議が新庄市内であった。この場で、県はダムによる治水対策の有効性を訴え、漁業振興策を示した。一方、漁協側は、次回協議に漁協側の推薦する有識者を加えた協議を求めたが、他の参加者の賛同が得られなかったため、協議とは別に、有識者による公開シンポジウムの開催を提案していた。

シンポジウムを開催しないとする知事発言について、小国川漁協の高橋光明組合長は、朝日新聞の取材に対して「漁協としては残念だ。シンポジウムは、ダム計画問題について、県民に広く知ってもらうためにも開きたかった」と話す。次回協議が最後となる可能性もあり、高橋組合長は「漁協は今、大変厳しい時期に差しかかっている。それだけに、有識者に協議に参加してもらい、治水対策などについて深い議論を進めていきたかった」と12日の決定についても不満を述べた。

青木公理事は「有識者の参加はだめ。シンポジウムは開かない。それでは突っ込んだ議論は不可能だ。3回目の協議は参加すべきでないと思う」と県の対応を非難した。（岩沢志気、上田真仁）